

月報 シオン山

2021年6月6日発行 (No369)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel (093) 561-0772 Fax (093) 561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

愚かな者としてではなく、賢いものとして、
細かく気を配って歩みなさい。

(エフェソの信徒への手紙福音書 5章15節)

山の思い出

田中 秀一

先日、梅雨空の切れ間から山の稜線がくっきりと見えて、清々しい気持ちになりました。梅雨の時期は、ジメジメして鬱陶しいですが、紫陽花の鮮やかな花や潤いをたたえた緑の木立を見ると、ほっと安堵した気持ちになります。

山といえば、私事で恐縮ですが、学生時代はワンダーフォーゲル部に入っていて、よく山に登ったものです。そこで得た経験は素晴らしいもので、学んだ教訓も数々あり、部活動の友とは今も親交があります。

学生時代は色んな山に登りましたが、特に上高地から入山する北アルプスの山々は大好きで、何度も行きました。今日を閉じて、美しい山々の峰が目に浮かび、友と励まし合って歩いた山の日々が懐かしく思い出されます。

しかし、最初の登山は地獄と天国を両方経験しました。山登りをする方なら、良くお分かりだと思いますが、先ず歩き始めは林道をしばらく行きます。そして暫くすると、杉木立の続く登山道に入ります。



そこは、歩いて歩いても、見えるのは杉木立の薄暗い森の中。風が吹かずに蒸し暑く、じめ

じめとした深い森の中を、一歩ずつ足を踏みしめていきます。休憩で腰を下ろすと汗が噴き出し、場合によっては、やぶ蚊やブヨが襲ってきます。それを払いのけて、再びいつまで続くともわからない山道を歩き続けます。それは、どこまで行っても同じような森の景色ですから、本当にこの道で合っているのだろうか？という不安な気持ちが迫ってきます。

その様な歩みをずっと続けていると、ほとんど突然の出来事のように、パッ！と視界が開ける場所に出てきます。北アルプスの場合、標高が 2,000 メートルくらいの場所から、森林限界となり、高い木は無くなり灌木林(かんぼくりん)といって、背丈の低い木々になります。

そこまで来ると、明るい日の光を浴びることができて、遙か麓を見下ろすことができます。「俺はこんなに高いところまで登ってきたのか・・・」と、その時に自分がどれだけ高い場所まで登って来たのかがわかり、初めて、今までの苦労に対して、自分で評価することができるのです。また振り仰ぐと、今まで森の中で見えなかった、きらきら輝く頂(ピーク)が見えます。そのときに「あそこまで行けばゴールだ！」という、明確な目標が分かるのです。そうすると、体全身に力がみなぎり、やる気も勇気も 100 倍になった思いがします。

この登山の体験は、私に物事の道理を教えてくださいました。それは・・・誰でも初めて新しいことをやり始めた時には、ある一定期間、苦しく忍耐を伴う時期が必ずあるということです。

当然ながら、その期間を耐えきれずに、自分を信じることができずに、努力を放棄した者は、描いた目的を果たすことができないということですね。そして、その数は圧倒的に多いのも事実です。

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。(ローマの信徒への手紙 5:3-4)

ところで、同じ一つの山でも、登るコースが幾つもあることをご存じでしょうか。まっしぐらに、ロッククライミングなんかしながら登っていく①垂直登頂や急登攀(きゅうとうはん)、急な斜面や、谷底の沢を登っていく②上級者コース、そして、子どもやお年寄りでも登ることができる安全な③一般道コースです。

①先ず垂直登頂ですが、最短コースですが、死ぬほどきついし大きな危険を伴うコースです。超人的な体力と、圧倒的な能力を持っていれば可能かもしれません。②続いて上級者コースです。短時間で登るコースですが、これもかなりきついし、若干危険を伴います。体力に余裕があり、経験を積んだ優秀な人なら可能かもしれません。③最後に一般道コースです。これは、風景や高山植物などを楽しみながら、ゆっくり登るコースです。無理なく楽しいし、何といっても安全です。私のような普通の人でも大丈夫なコースと言えます。ですから誰でも必ず登頂できるのは、③の一般道の登山コースということですね。

我々信仰の歩みも、無理をしないうで、慌てず焦らず、他者と比べることなく進みたいものです。まるで山の素晴らしい景色や、美しく可憐な高山植物の花を愛でるように、祈りつつ、日々新たな恵みの喜びと感謝を積み重ねていく、そのようなクリスチャンとしての姿勢を持ち続けていきたいと願います。